

日本救急医学会

災害医療検討委員長
本間正人

代表理事
行岡 哲男

救急科専門医

- 救急科専門医は、病気、けが、やけどや中毒などによる急病の方を診療科に関係なく診療し、特に重症な場合に救命救急処置、集中治療を行うことを専門とします。
- 更に、救急医療の知識と技能を生かし、救急医療制度、メディカルコントロール体制や災害医療に指導的立場を発揮します。

救急科の位置づけ

消化器・呼吸器・内分泌代謝・腎臓・アレルギー・
老年病・循環器・血液・糖尿病・肝臓・感染症・
神経内科・消化器外科・呼吸器外科・
心臓血管外科・小児外科 等



基本領域専門医

18 + 1

内科 皮膚科 外科 産婦人科 耳鼻咽喉科 脳神経外科 麻酔科 小児科 精神科 整形外科 眼科 泌尿器科 放射線科 救急科 リハビリテーション科 形成外科 病理 臨床検査

総合診療科(仮)

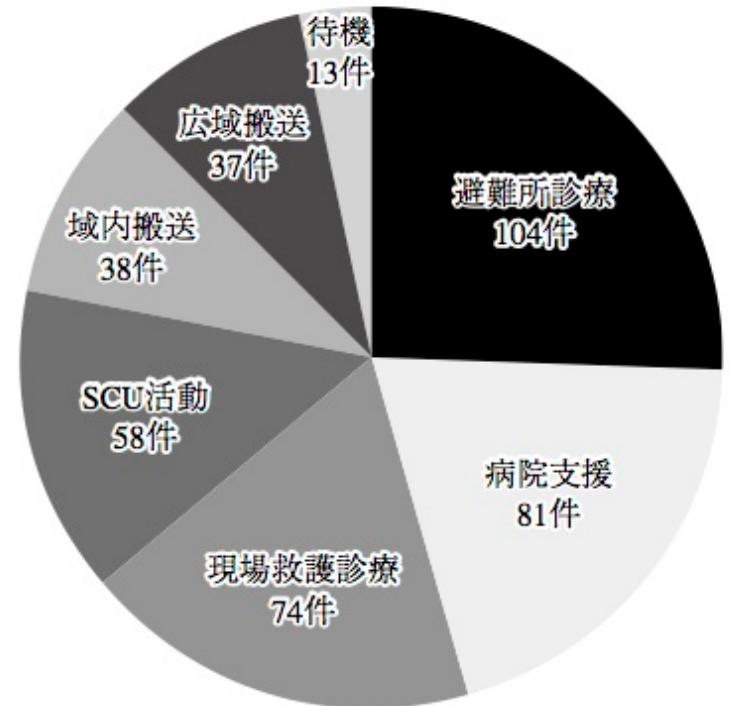
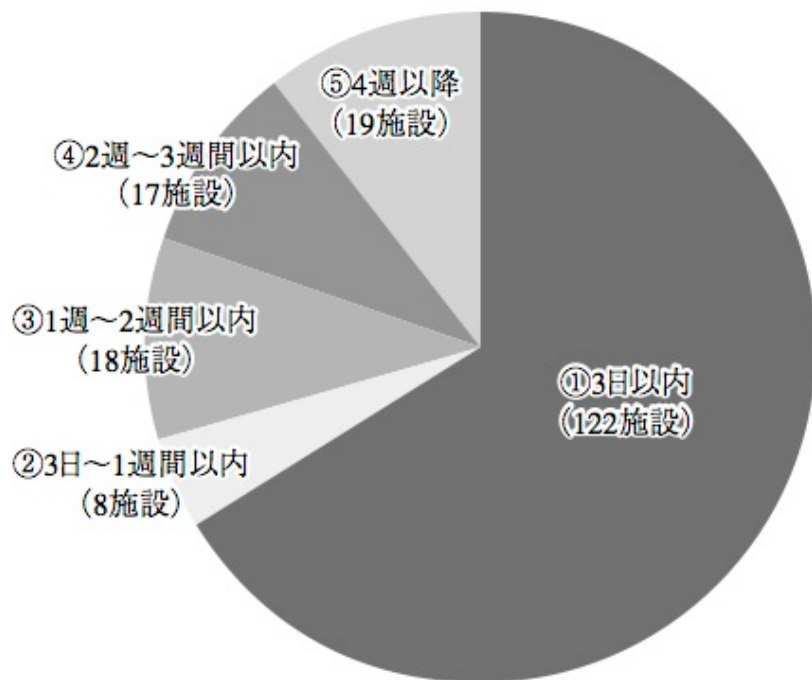
日本救急医学会

- 正会員数 医師 10553名
- 救急科専門医 4065名
- 救急科専門医指定施設 515施設
- 救命救急センター 279施設

(2015年1月1日現在)

東日本大震災の取り組み(1)

DMAT・医療救護班の派遣



発災直後の急性期災害医療に係るDMATの主要構成員は本学会員であり、その後の被災地医療機関支援、避難所における診療、後方搬送支援などに際し多くの本学会員が重要な役割を担いました。

東日本大震災の取り組み(2)

福島第一原発事故に係る医療支援 (発災～2011.8.31)

原子力災害現地対策本部長からの要請に基づき、福島原発事故緊急ワーキンググループが中心となって、

- ①福島県庁**オフサイトセンター**に現地対策本部医療班災害医療アドバイザー
- ②**Jヴィレッジ**に総括医師

を複数派遣しました。

福島県内の被ばく医療に係る主な機関



O. オフサイトセンター(OFC)

司令塔機能

- ・傷病者の数、状態等の把握
- ・搬送方法の調整
- ・搬送先の調整

1F. 福島第一原発 (救護所)

被ばく・外傷の可能性ある作業員への初療

J. Jヴィレッジ

救急搬送の拠点

- ・重症度に応じて患者の振り分け
- ・必要に応じて除染

M. 福島県立医大

県内被ばく医療の拠点

- ・2次被ばく医療機関
- ・外傷患者にも対応可能
- ・

広域搬送(3次被ばく医療機関)

放射線医学研究所+協力病院(6)

広島大学+協力協定病院(6)

東日本大震災の取り組み(2)

福島第一原発事故に係る医療支援 オフサイトセンター組織図(福島県庁)

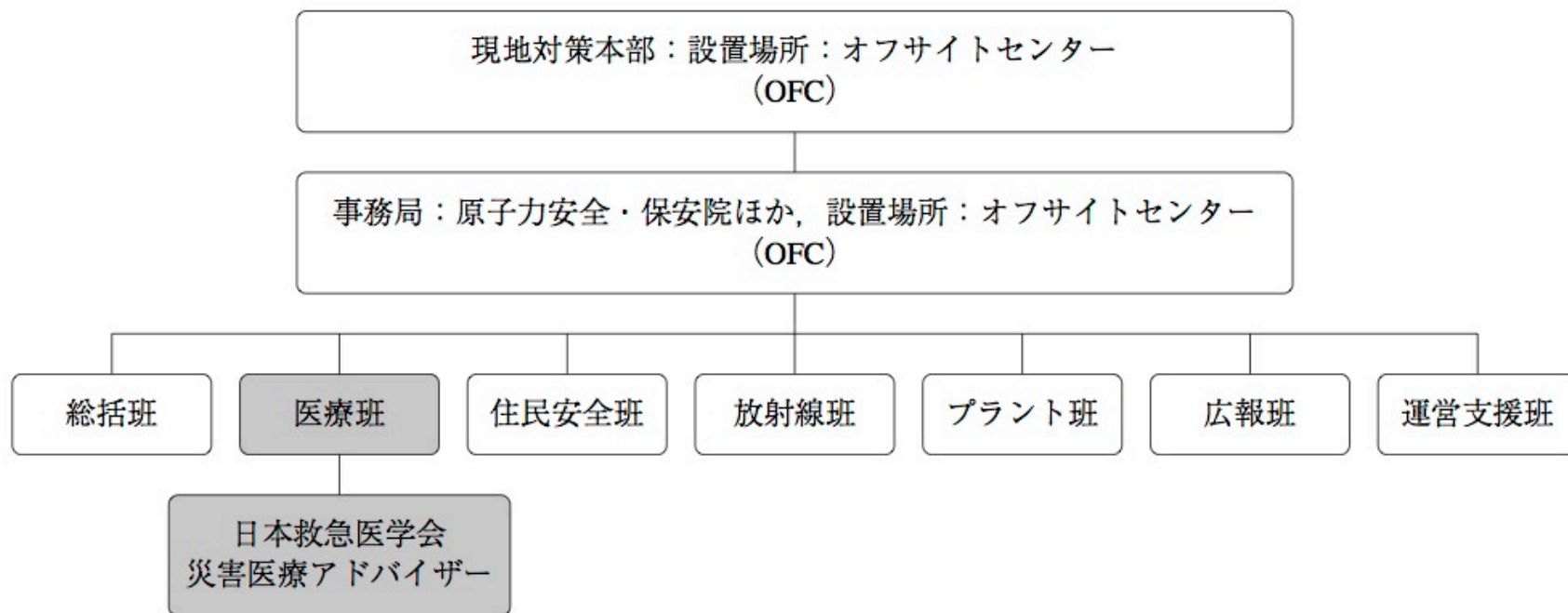


図1 現地対策本部（オフサイトセンター）組織図

東日本大震災の取り組み(2)

福島第一原発事故に係る医療支援

Jヴィレッジ医療チーム組織図



図3 Jヴィレッジ医療チームの構成

DMAT: disaster medical assistance team, REMAT: radiation emergency medical assistance team